



この不寛容な現代に  
際立つ清廉さ、崇高さ  
国籍や宗教を超えて結ばれる、  
実在した医師と修道女との  
絆を描いた感動作！



ベルイマンの最盛期を彷彿させる。

— CINEVUE

深い感動と  
幾重にも織りなす感情の波が  
押し寄せる。

— THE WRAP

アンヌ・フォンテーヌの最高傑作！

— VARIETY

## 第二次世界大戦が終結した年のポーランド。 主人公マチルドが修道院で目の当たりにした事件とは？

1945年12月のポーランド。赤十字の施設で負傷兵への医療活動を行う若きフランス人医師マチルド（ルー・ドゥ・ラージュ）のもとに、悲痛な面持ちのシスターが助けを求めてやってくる。担当外であることを理由に一度は断るマチルドだったが、凍てつく空の下で何時間もひたむきに神への祈りを捧げる姿に心動かされ、遠く離れた修道院へと出向く。

そこでマチルドが目にしたのは、ソ連兵の蛮行によって身ごもり、信仰と現実の狭間で苦悩する修道女たちだった。かけがえのない命を救う使命感に駆られたマチルドは、幾多の困難に直面しながらも激務の合間を縫って修道院に通い、この世界で孤立した彼女たちの唯一の希望となってゆく……。

その深い闇にともる、  
ほのかな灯り——  
暗い夜もやがては  
薄明を迎えると信じて。

フランスのアカデミー賞に当たるセザール賞で作品、監督、脚本、撮影の主要4部門にミネートされたアンヌ・フォンテーヌ監督の最新作は、実在したフランス人医師マドレーヌ・ポーリアックの物語。1945年にポーランドの修道院で実際に起こった衝撃的な事件を基に、その想像を絶する苦難に立ち向かった勇氣ある女性の軌跡を今に伝える。

戦時のおぞましい犯罪の犠牲者でありながら、誰をも責めず、誰をも憎まず、ただ神に救いを請う修道女たちに胸を締めつけられた主人公マチルドは、彼女たちに寄り添うことを決意。そこにある尊い命を救いたい、その一心で危険をも顧みず、無償の人道支援に身を投じてゆく。世界中に不寛容の風潮が広がる現代において、ヒロインの清廉さが観る者すべてに崇高なる感動を呼び起こす。女性たちの情熱と祈りがたぐり寄せる、奇跡のような“夜明け”のラストシーンに心揺さぶられずにはいられない。



yoake-inori.com

夜明けの祈り

8.5(土) 全国順次公開

特別鑑賞券¥1,500(税込) 絶賛発売中(当日一般¥1,800の処)

劇場窓口でも買い求めの方に  
オリジナル・ポストカードを  
プレゼント！(数量限定)

有楽町イトシア イトシアプラザ4F  
〒デアトルシネマグループ

ヒューマンラストシネマ有楽町

03 (6259) 8608 www.ttcg.jp

JR新宿駅中央東口 ビックロ裏  
武蔵野ビル3F

新宿 武蔵野館

03(3354)5670 shinjuku.musashino-k.jp